

平成29年度 日本大学スポーツ科学部個人研究費 研究実績報告書

所属： スポーツ科学部 競技スポーツ学科

資格： 准教授

氏名： 日吉 秀松

研究課題		文化大革命のプロセスおよび目的に関する分析
報告の概要	研究目的及び研究概要	<p>研究目的 本研究の目的は、毛沢東によって発動された文化大革命（以下「文革」と略す）のプロセスを分析し、その目的を解明することにある。中国政府は文革を徹底的に否定したものの、文革に関する研究および研究成果の発表に対して制限や禁止の政策をとり、毛沢東に対する事実を即した評価を行わず、毛沢東思想を依然として中国社会における指導的な思想の一つであると位置付けている。したがって、本研究は、文革の目的を明らかにすることによって、文革研究を促進させることに貢献したい。</p> <p>研究概要 文革期における毛沢東と林彪（党の副主席）の権力闘争を中心とする資料の収集や分析を行う。</p>
	研究成果	<p>文革期における権力闘争の原因を追究するため、毛沢東と林彪の関係、毛沢東と江青の関係、それから、林彪と江青の関係を詳しく分析した結果、後継者についての毛沢東の考えが明らかとなった。その初期的成果として、論文「1970年における“国家主席”の設置をめぐる議論の本質に関する考察」をまとめて、2017年9月、日本大学文理学部人文科学研究所在が発行した『研究紀要』に掲載された。</p>
研究業績	<p>・論文および著書</p> <p>著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数</p>	<p>①論文：日吉秀松「1970年における“国家主席”の設置をめぐる議論の本質に関する考察」『研究紀要』第94号、査読有り、日本大学文理学部人文科学研究所在、2017年9月発行、127-138ページ。 ②著書：日吉秀松「東亜共同体形成所面臨的課題（東アジア共同体形成における諸課題について考察）」王冲、金相淳 編著『東亜和平之路—東北亜如何合作』 査読なし、察哈爾学会 東亜和平研究院発行、2017年、97-104ページ。 ③著書：「浅析毛沢東“反右”之目的兼論歴史事件正名的必要性（毛沢東の「反右派闘争」の目的に関する分析）」呉称謀 編『“反右”與当代中国命運』 世界華語出版社（アメリカ）、2017年5月、48-60ページ。</p>
	<p>・学会発表等</p> <p>発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所</p>	なし
	<p>・その他</p> <p>*学会・競技団体報告書など 著書名・標題・掲載誌名 発表年月・発行所 *講演会、研究会、研修会、セミナー等での講演発表 発表者・発表年月・題目名・講演会名 *社会貢献活動等</p>	なし